

入学式、始業式、新学期オリエンテーションなどを終え、あっという間に4月も終わりに差し掛かります。学校の日常が始まって、間もなくゴールデンウィークに入ります。せっかく新しい環境に慣れたばかりなのに、一息ついて仕切り直しということになるのかと思います。

年度初め、本校の教育目標である「グローバル・イノベーション・リーダーを育てる」(地球的な視野で考えて、地域社会と協創できる人材の育成)の具現化として、生徒の自立(自律)を促し、さらに「自走」へと向かう生徒を育てようということを教職員で共有しました。そんな折、本校生徒の様子で、我々が望む「自走」という雰囲気を感じさせる生徒の姿に、先日、出合いました。

(右の写真は、中学3年生の“GCP”の授業の様子)



「自走」へと向かうために

4月21日(金)、廿日市立野坂中学校を訪れ「学校説明会」を行いました。5時間目、説明会場の体育館に向かうと、すでに3年生全員(約140名)が体育館に集合していました。中学校の先生から出向いた本校3名(私、教員1名、野坂中出身生徒1名)について紹介していただき、学校紹介をすぐに始めました。プロジェクターで映し出した画像や映像に従いながら30分ほど説明しましたが、生徒たちは熱心に聞き入ってくれました。その後、帯同した高校2年生の女子生徒から、学校が綺麗なこと、校内の雰囲気が良いこと、食堂のメニューなどについて話してから質疑応答。「人気のクラブ活動は?」「修学旅行の行先は?」「フライドポテトは何味か?」「就職先は?」など、たくさんの質問がありました。

最後に高2女子生徒にマイクを向けました。後輩へ一言と。すると、「いろんな高校がこうして説明に来ると思います。その中で自分にとってどの高校が相応しいのか、悩むとは思いますが、しっかり考えて本当に相応しい高校を選んでください」と、後輩に向けて想いのこもった口調で丁寧に話してくれました。中学生は先輩の話に聞き入り、頷く生徒もちらほら。「協創へ来てください!」という言葉は述べるだろうと予想していた私は、嬉しい、感動の肩透かし。その生徒の言葉に学校説明は事足りたようにさえ思いました。生徒との帰途、「ありがとうね」と伝えました。また、その生徒の進路目標を聞いて、納得しました。

成長する生徒の姿に出会えた瞬間でした。

4月24日(日)、本校高校サッカー部が公式戦に臨みました。相手は宮島工業高校。会場も同校でした。私はこの試合を観戦することはできな

かったのですが、同校の顧問とは旧知の間柄ということもあり、試合が済んだ後、次のような電話をいただきました。

「先ほど試合が終わりました。先生、生徒にどんな指導をされているんですか。協創の生徒がグラウンドに到着して、試合が始まるまでの様子を見て、うちは負けると思いました。結果は2-0で勝たしてもらいましたが…。協創の生徒が校内に入るときの挨拶、整然とした荷物のまとめ方。試合中の集中度合とマナーの良さ、ハーフタイムにはグラウンドに一礼し、試合後は清々しい挨拶。素晴らしかったです。これですよ、大切なのは。久々に学ぶべきチームに出会いましたよ。自分の生徒に言いました。協創に学ぶことは何かって。先生、今、協創の生徒が帰るところですが、服装をちゃんとして、会釈して。いやあ、勉強になりました。今日はありがとうございました。また、対戦させていただければ嬉しいです」。

驚くやら、嬉しいやら。「いやいや、そんなふうには言ってもらって光栄ですよ。顧問、生徒に伝えておきます。ありがとうございます」と返しました。数日前、練習の様子を伺い、何となく雰囲気が変化していることに気づいてはいたのですが、よく知った先生とは言え、相手チームの先生からこれほどまでに評価していただけたのは。

勝利という結果は必須です。しかし、それがすべてではありません。スポーツを通じて、自分を律することや他者への感謝の念を抱くことなど、学ぶことは多くあります。そんなことに気づけることの方が勝つことより大事なことです。

サッカー部の生徒たちは、少しずつそのことに気づきながらグラウンドに立ち、試合に臨んでいるのだと思います。